

気をつけましょう

◇春はブリーディングシーズン（繁殖季節）です

牛は特別に繁殖季節を持たないが、それでも一般的には春は授精率が向上し、5月は最高になるから、不受胎牛はこの時期をのがさないようにしよう。

◇生草給与による飼料費の節約を

良質の牧草青刈だけで18kgは搾乳出来る。自給飼料を多給(80kg)している場合は、大麦、トウモロコシなどの高カロリーで栄養率の広いものを給与。

◇牛舎の消毒をしよう

梅雨前5月中にぜひ一度消毒をすること。牛舎、飼槽、中床、間栓棒、壁を湯水で洗い、2～3%クレゾール液、1%パンゾール液で消毒しよう。

◇乾草飼料から青草への変換に注意しよう

5月初めから青草を給与するようになるが、今まで稲ワラや乾草を与えていた牛に急にクローバーやレンゲを多給すると、胃腸障害にかかり下痢をしたり鼓張症を起し易いので、徐々に青草に切変える。

◇農繁期の使役する前に削蹄をぜひ忘れぬように

蹄が伸びたままだと牛の作業能率が下り、牽引力や歩巾も1割くらい小さくなり、疲労も多くなる。育成牛も年4回は削蹄したいもので、これを行なわないと、肢勢や体勢がくずれてしまう。

◇肝蛭の伝播する時期だから早目に検査。駆除しよう

青草が出るようになると肝蛭卵のついた草を刈ってやるようになるから、家畜保健所で診断をうけて駆除しよう。また、吸血昆虫の発生が多くなるから牛舎、堆肥舎の周辺にDDT油剤を散布しよう。

乳

和

草

鶏

◇牧草は刈り遅れないように

クローバーの開花始めに地上6～8cmで刈る。刈り遅れは、後の再生が悪くなる。

◇イタリアンの火力乾燥は予乾を充分に

天日による予乾を充分に、天気が悪いときは三角架、針金架も使って

◇テオシント、ソルゴー、スーダンの播種は5月上、中旬に

初期の除草には、播種直後PCP1kg、シマジンカーメックス50～100gを散布。

◇青刈トウモロコシと、テオシントの害虫防除

ダイメイチュウは4～5月まきに多い。5中～6上にDDT乳剤400倍液を葉腋に10日おきに2、3回散布。夜盗虫は5下～7下に発見次第DDT散布。

◇防寒施設を取除きましょう

◇内外寄生虫を駆除しよう

暖くなるに従い寄生虫の繁殖が旺盛になり、油断すると大きな被害をうける。羽ジラミ、ワクモにはマラソン乳剤の散布が最も有効であるが、養鶏用マラソン乳剤は色々の名称で市販されており、濃度も一様でないので使用前には使用書をよく読むことが大切。内部寄生虫も状況によって駆除しよう。

◇鶏痘予防接種は必ず力の発生前に行なう

予防接種の効果は接種後2～3週間で現われ、その後4ヵ月間持続する。接種が早すぎると流行期に効果がなくなり、遅すぎると被害が大きくなる。接種の適期は流行の1ヵ月から1ヵ月半前、即ち、5月中旬から6月中旬の間がよいことになる。